

東日本大震災における消防団員の活動等に関する調査結果

＜団員向けアンケート＞

平成23年11月25日

調査概要

1. 調査対象

宮古市、釜石市、気仙沼市、石巻市及びいわき市の5市のうち、沿岸を担当した以下の分団に所属する団員を調査対象とした。
※あくまでも対象が100人程度になるように各市に依頼したものであり、その市の沿岸を担当したすべての団員に調査したものではない。

県名	市町村名	配付数	回収数	回収率	分団名
岩手県	宮古市	105	76	72. 4%	第6分団、第7分団、第25分団、第29分団、第30分団
	釜石市	150	101	67. 3%	第1分団、第3分団、第8分団
宮城県	気仙沼市	97	78	80. 4%	第1分団、第2分団
	石巻市	120	103	85. 8%	第2分団、第7分団、第11分団
福島県	いわき市	120	113	94. 2%	第2支団第1分団
合計		592	471	79. 6%	

2. 調査期間

平成23年10月3日(月)～11月11日(金)

3. 調査項目

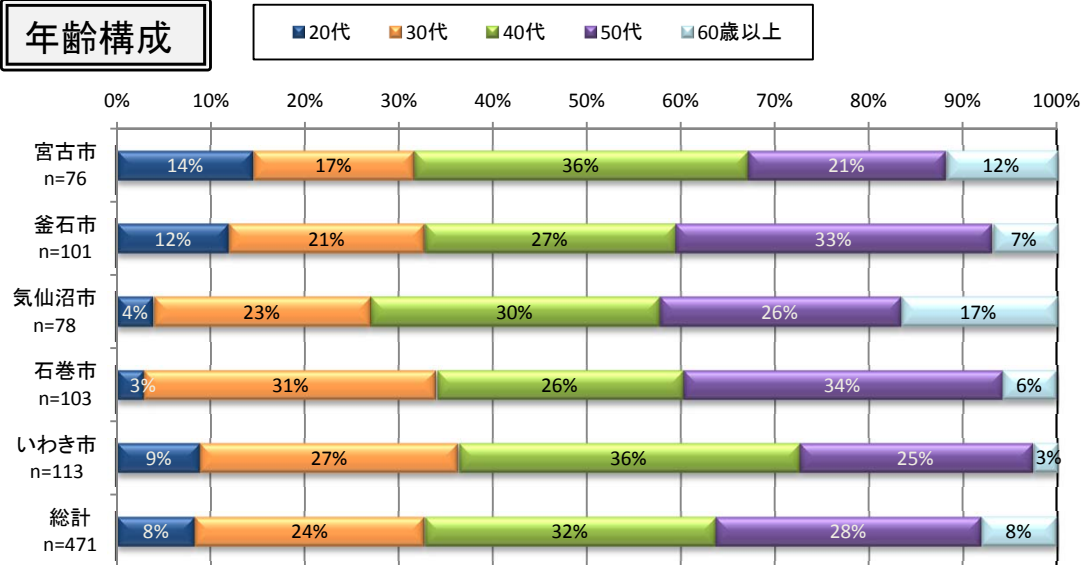
- | | | |
|---|---|---|
| <p>(1)団員の属性
年齢構成、職業、経験年数、階級</p> <p>(2)東日本大震災時の対応
ア 地震直後の参集状況
イ 消防団の地震直後の活動
ウ 水門閉鎖活動
エ 避難誘導活動
オ 災害時要援護者への支援・把握状況
カ 初動時における活動人員
キ 団員の退避行動</p> | <p>(3)情報把握
ア 地震の大きさ(震度)の把握状況
イ 大津波警報発令情報の把握状況
ウ 津波到達予想時刻の把握状況
エ 津波の高さ情報の把握状況</p> <p>(4)安全管理
ア 地震発生1週間の消防団活動
イ 活動中の危険の有無
ウ 今回の震災対応で特に有効であった資機材
エ 配備の必要性を感じた資機材</p> | <p>オ 津波災害対策として必要だと感じたこと
カ 防災状況の把握状況</p> <p>(5)大震災を想定した日頃の訓練、研修等
ア 津波防災関係の教育・訓練(その1、その2)
イ 惨事ストレス
ウ 団員の処遇と今後の活動
エ 消防団に入団したきっかけ</p> |
|---|---|---|

4. 調査手法

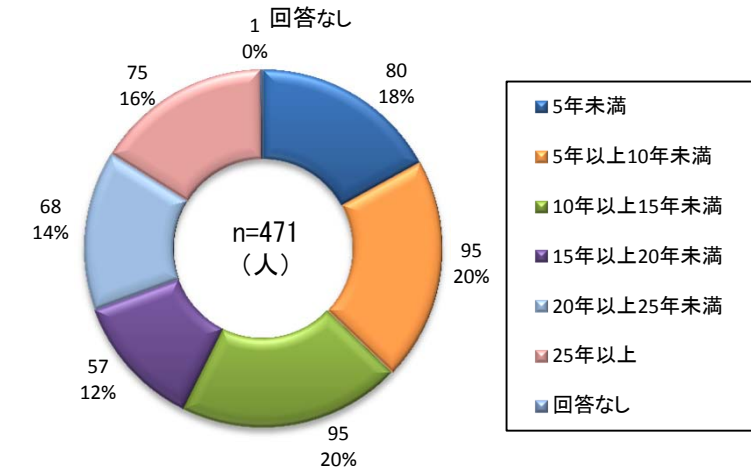
質問票を用いた無記名回答によるアンケート調査

団員の属性

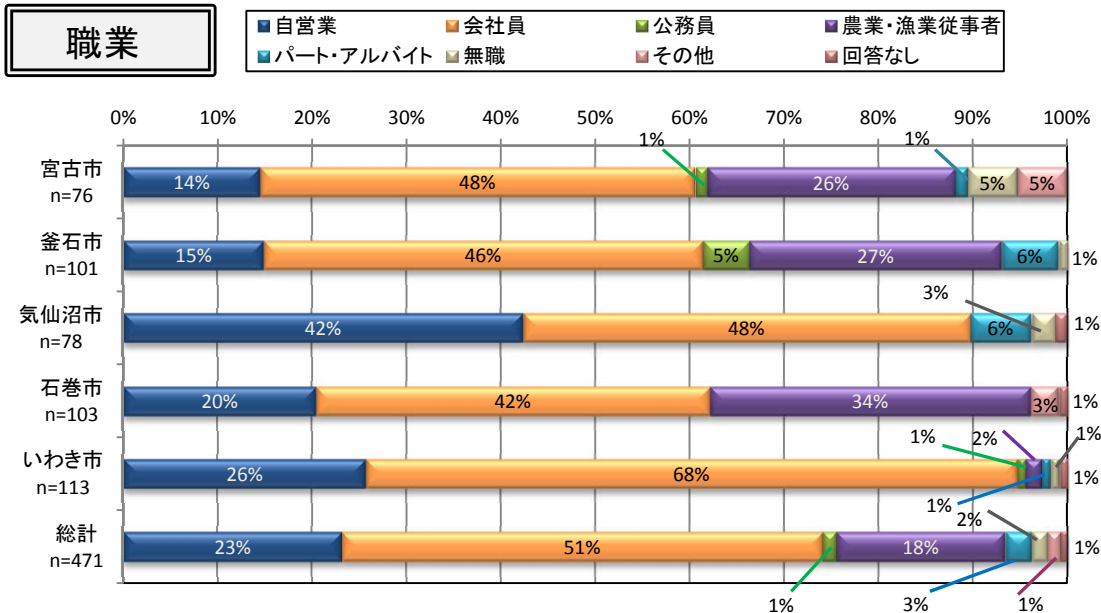
年齢構成



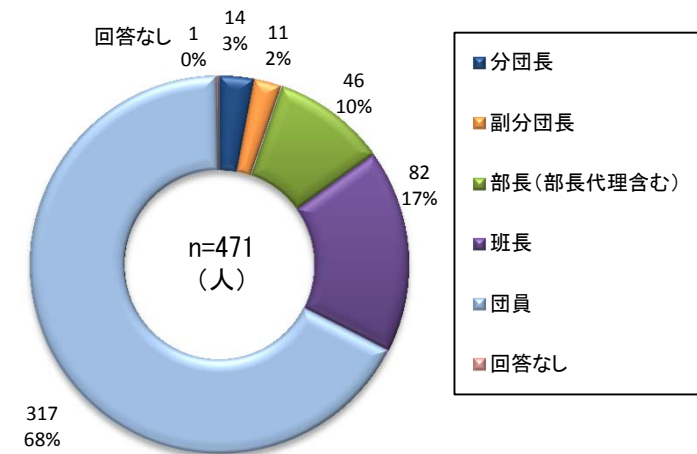
経験年数



職業



階級



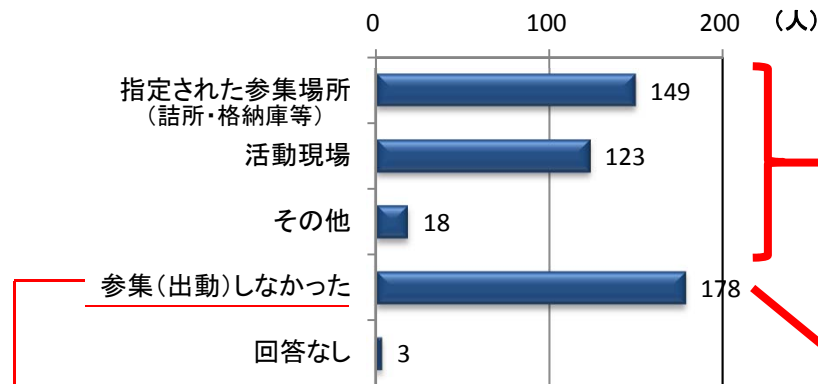
地震直後の参集状況

■ すべての団員が地震直後に参集できるわけではない

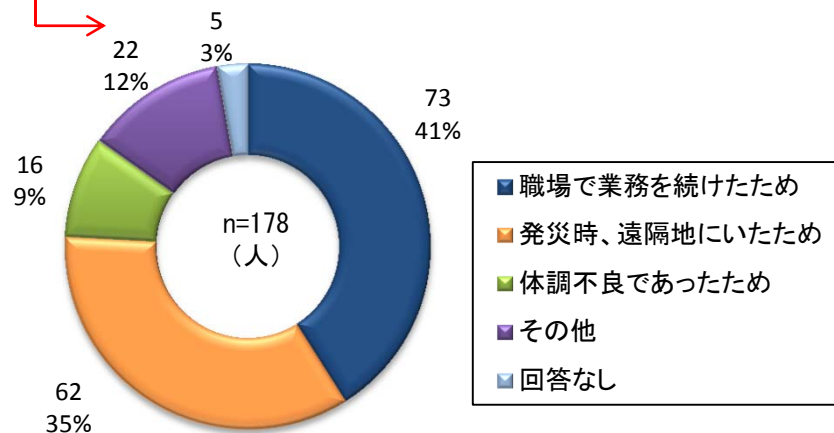
地震発生直後、消防団活動を行うため「指定された参集場所（詰所・格納庫等）」に約3割の団員が参集、「活動現場」に直接向かった団員と合わせて約6割が震災直後に参集。

その一方、約4割の団員は、職場での業務や遠隔地にいた等の理由により、参集できなかった。

Q あなたは地震発生直後、消防団活動をするためにどこに向かいましたか？ (n=471)

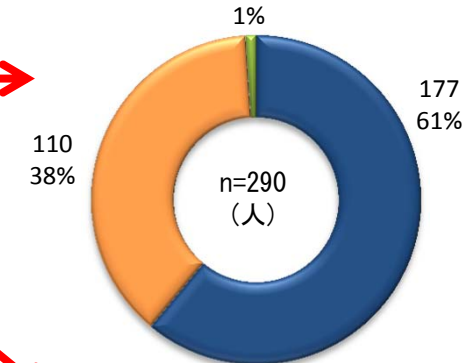


参集しなかった理由

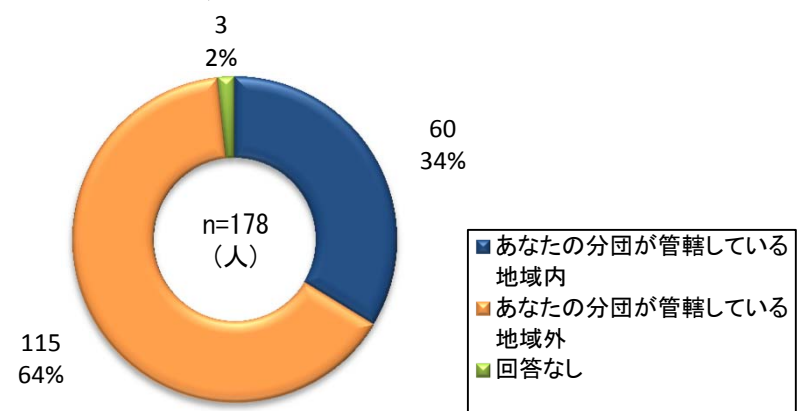


Q 3月11日14時46分に地震が発生した時、あなたはどこにいましたか？

参集した団員



参集できなかった団員

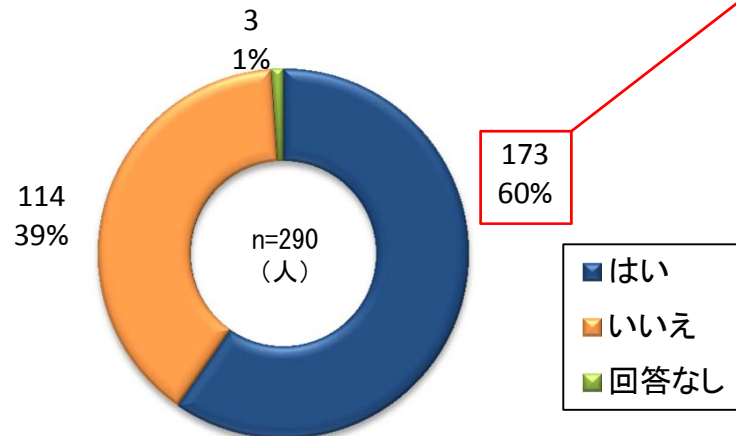


消防団の地震直後の活動

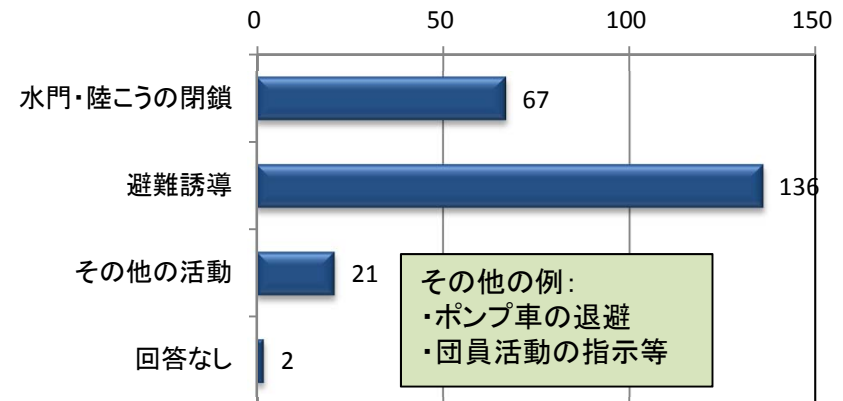
■ 地震発生直後、全ての消防団員が活動できるわけではない

地震発生直後に消防団活動を「実施できた」団員は、約6割。実施した団活動は、「避難誘導」が約8割、「水門・陸こう閉鎖」が約4割でこれに次ぐ。約4割の消防団員は、「交通止めや渋滞などの交通事情」「情報収集や活動中に津波が到来したため」等の理由により、消防団活動を実施できなかった。

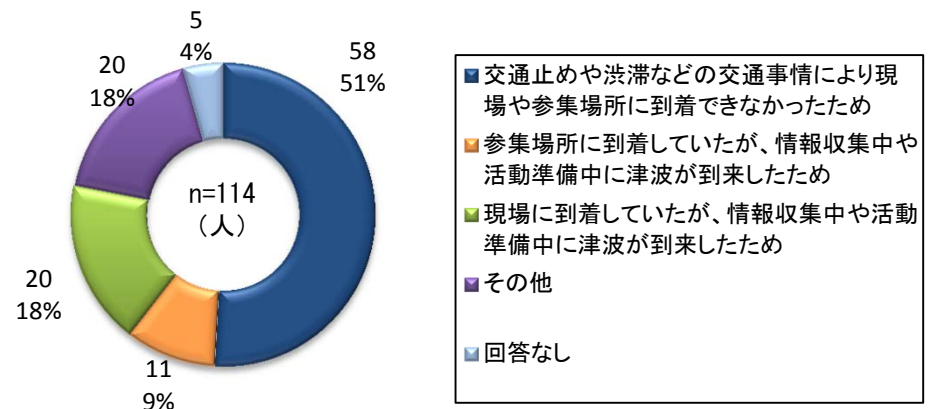
Q あなたは津波が到達するまでの間に消防団活動を実施しましたか？



Q それは、どのような活動でしたか？（複数回答） (n=173)



Q 活動できなかった理由について、お答えください。(n=114)



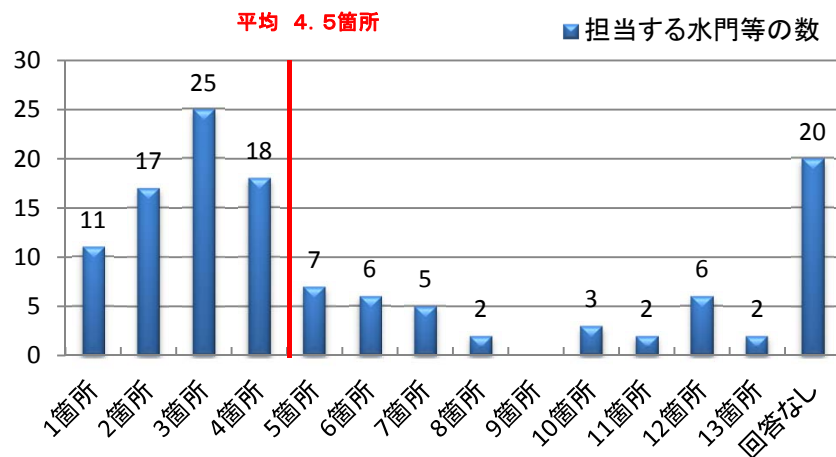
	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
はい	28	59	32	36	18	173
いいえ	27	17	23	24	23	114
回答なし	1	1	0	1	0	3
総計	56	77	55	61	41	290

水門閉鎖活動

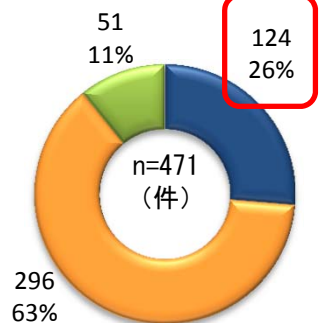
■ 多くの団員が複数の水門等の閉鎖及び確認を担当

水門等の閉鎖及び閉鎖確認作業を任務としていた団員が担当することになっていた水門の数の平均は、4.5箇所。また、今回の震災で水門等の閉鎖及び閉鎖確認作業を行った団員の対応数の平均は、2.9箇所であった。

Q 水門等の閉鎖及び閉鎖確認の担当数をお答えください？
(n=124) ※事前割り当て数



水門等の閉鎖及び閉鎖確認作業を
任務としていましたか

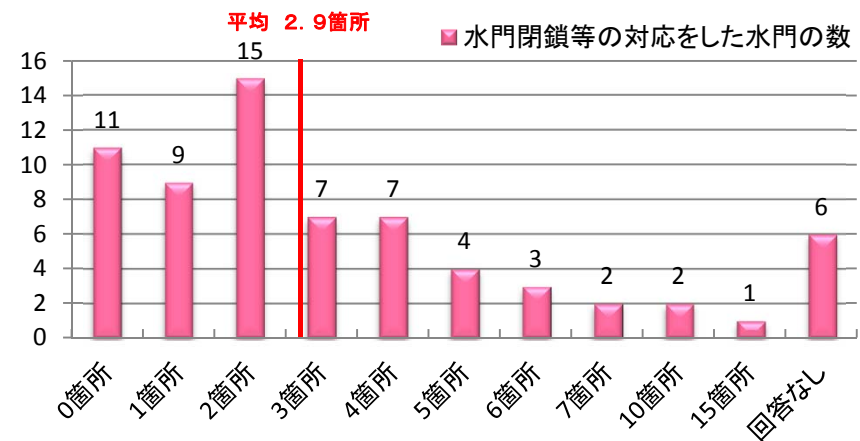


■ はい ■ いいえ ■ 回答なし

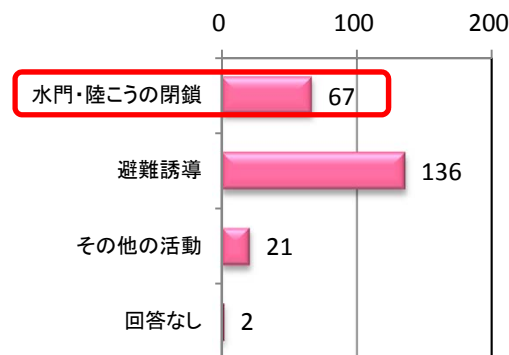
水門閉鎖・閉鎖確認の事前 割り当て数 (n=104) ※	
平均値	4.5
最大値	13
最小値	1

※平均値は「回答なし」を除いた集計値

Q 水門等の閉鎖及び閉鎖確認の対応数をお答えください？
(n=67) ※活動実績数



地震発生直後に実施した消防団活動



水門閉鎖・閉鎖確認を実施
した数 (n=61) ※

平均値	2.9
最大値	15
最小値	0

※平均値は「回答なし」を除いた集計値

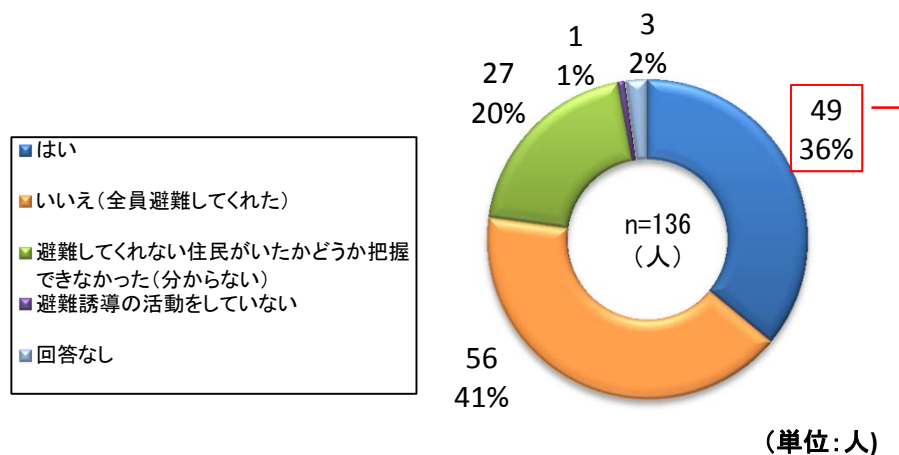
避難誘導活動

■ 消防団員の避難の呼びかけに応じない住民もいた

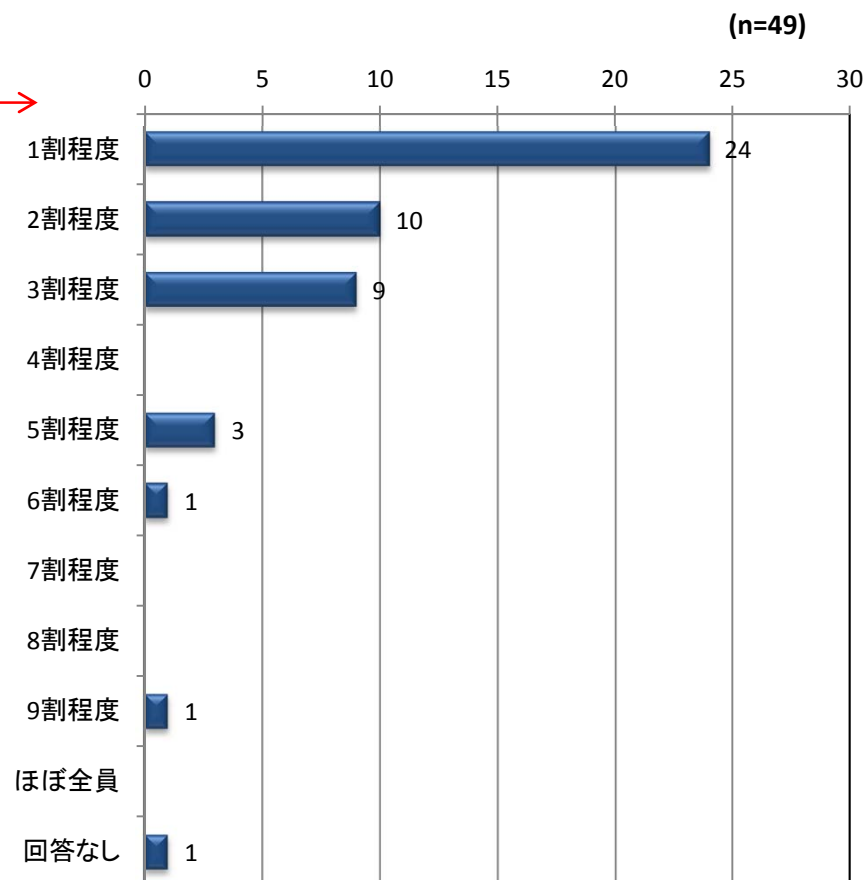
地震発生直後に避難誘導を行った消防団員のうち、「避難するよう声をかけても、避難してくれなかった住民がいた」と回答した団員が、約4割、「全員避難してくれた」と回答した団員も約4割いた。

「避難してくれなかった住民がいた」と回答した団員(49名)にその割合の印象を尋ねたところ、1割～3割とする回答が大多数であった。しかしながら、5割程度の住民が避難してくれなかったと感じた団員が3人、6割程度と感じた団員が1人、9割程度と感じた団員も1人いた。

Q あなたが避難するよう声をかけても、避難してくれなかった住民がいましたか？



	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
はい	9	13	11	12	4	49
いいえ(避難してくれた)	8	17	5	20	6	56
把握できなかった	6	14	4	0	3	27
避難誘導していない	0	0	0	1	0	1
回答なし	1	2	0	0	0	3
総計	24	46	20	33	13	136

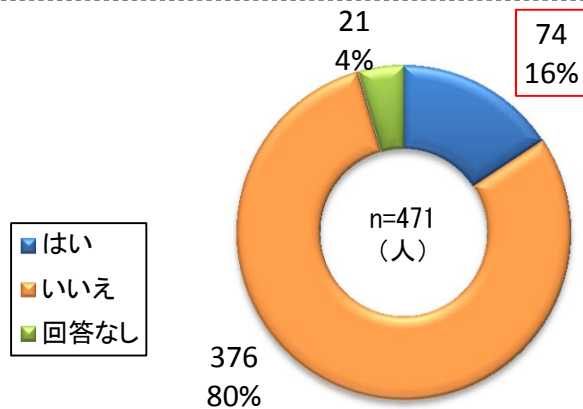


災害時要援護者への支援・把握状況

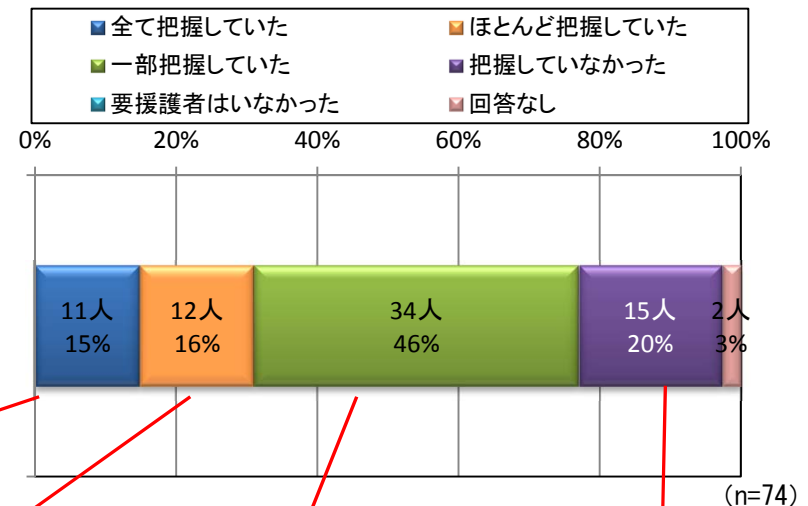
■ 要援護者の人数、居住地の把握度合が高いほど、うまく要援護者の避難誘導を実施

災害時要援護者の避難誘導を任務としていた団員は、2割程度。このうち、災害時要援護者の人数、居住場所を「全て把握していた」「ほとんど把握していた」と回答した団員が合わせて3割程度、「一部把握していた」が半数程度、「把握できていない」と回答した団員も2割いた。要援護者の人数、居住場所を「全て把握していた」と回答した団員は、「避難誘導がうまくできた」という回答の割合が「把握できていない」場合と比べて約10倍、「ほとんど把握していた」場合と比べても約2.5倍多かった。

Q あなたは、災害時要援護者の避難誘導を任務としていましたか？



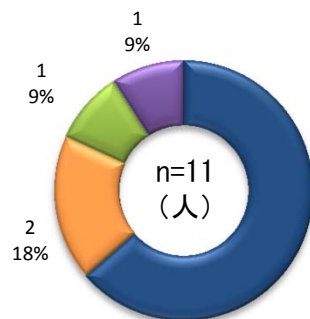
Q 災害時要援護者の人数、居住場所を把握できていましたか？



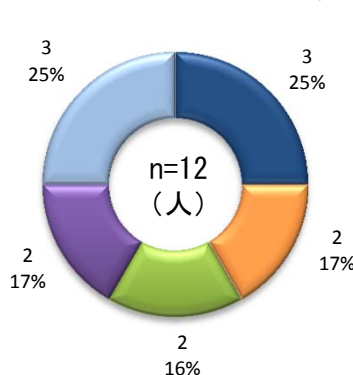
Q 災害時要援護者の避難誘導はうまくできましたか？

■ うまくできた
■ 概ねうまくできた
■ あまりうまくできなかった
■ うまくできなかった
■ 回答なし

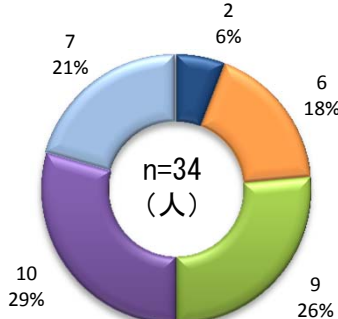
全て把握していた場合



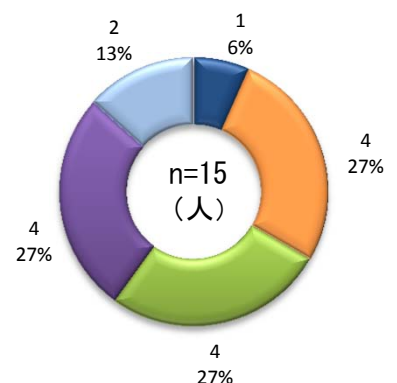
ほとんど把握していた場合



一部把握していた場合



把握できていなかった場合

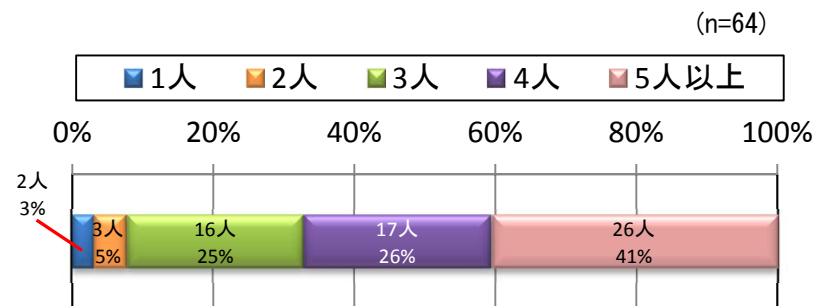


初動時における活動人員

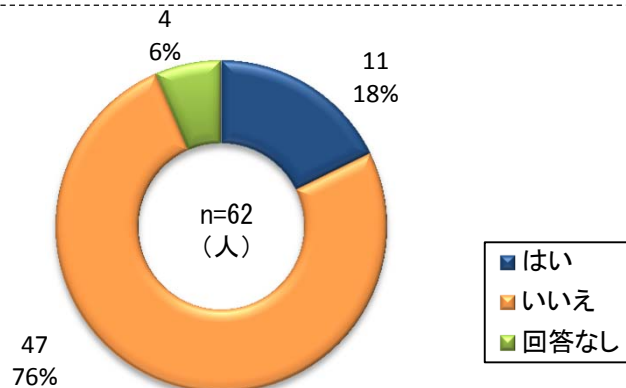
■ 概ね、複数名で水門活動や避難誘導を行っていたが、単独で行動する場面があった

水門活動や避難誘導を複数名で行った団員が9割以上。しかし、これらの活動の実施中に単独（目が届く範囲や声が届く範囲に仲間の団員がいない状態）で活動することとなった場面があったと回答した団員が、水門活動、避難誘導のいずれの場合も2割程度いた。

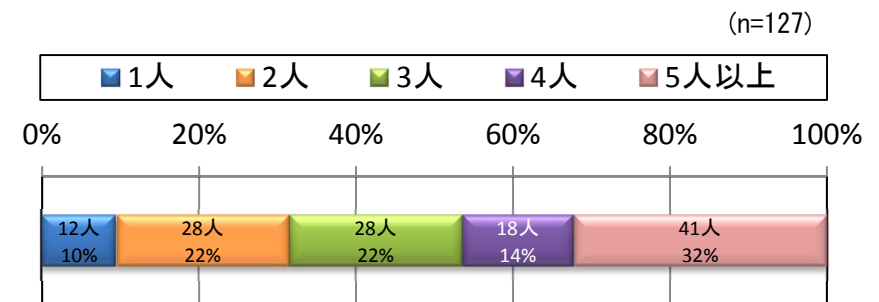
Q あなたが対応した水門等は、あなたも含めて何人で活動しましたか？



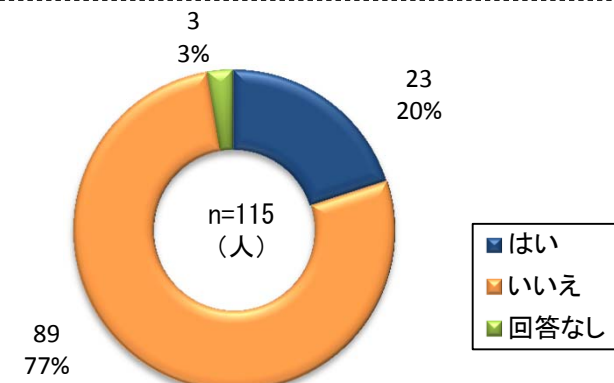
Q 現場では、あなたが単独で活動することとなった場面がありましたか？



Q 避難誘導の活動についてあなたを含めて何人で活動しましたか？



Q 現場では、あなたが単独で活動することとなった場面がありましたか？



団員の退避行動

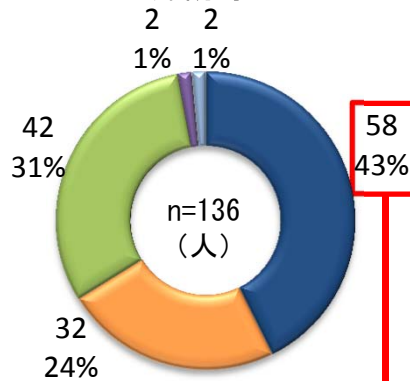
■ 活動を中断して退避した団員の多くが、自ら身の危険を感じたため、退避行動をとった。

避難誘導の活動時に「活動を中断して退避した」は約4割(58人)、「活動中に津波に襲われた」が約3割(42人)でこれに次ぐ。水門等閉鎖の活動時に「活動を中断して退避した」は、約2割(15人)。

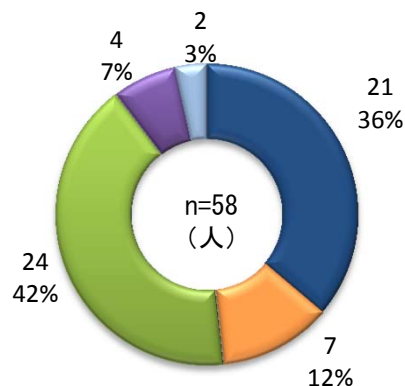
活動を中断、退避した理由は、避難誘導と水門等閉鎖の活動とも「身の危険を感じたため(津波が見えたなど)」がそれぞれ約4割(24人)、約7割(11人)で最も多い。

Q 退避行動についてお答えください。また、退避の理由についてお答えください。

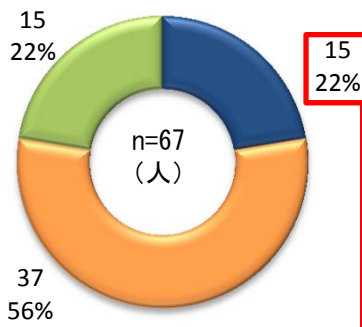
消防団活動中の退避行動
(避難誘導)



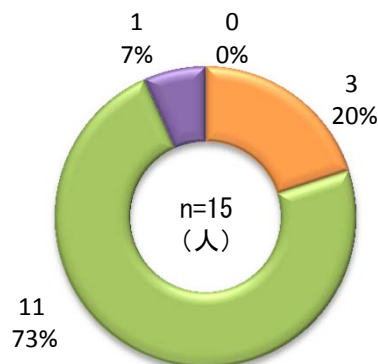
活動を中断し、退避した理由
(避難誘導)



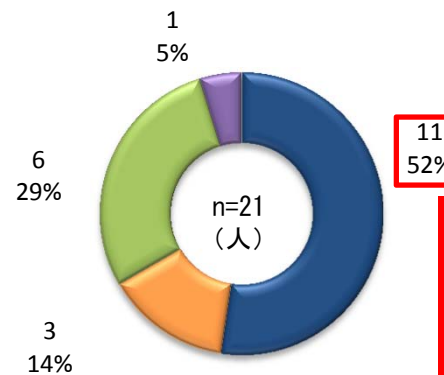
消防団活動中の退避行動
(水門等閉鎖)



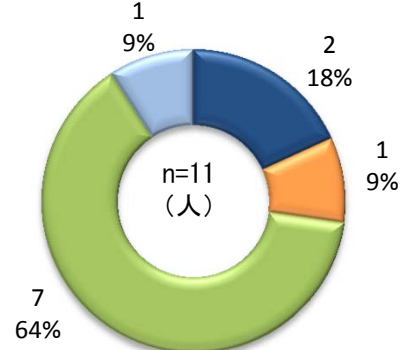
活動を中断し、退避した理由
(水門等閉鎖)



消防団活動中の退避行動
(その他)



活動を中断し、退避した理由
(その他)



■ 活動を中断して退避した
■ 津波到達前に活動が終了したため退避した
■ 活動中に津波に襲われた
■ 退避行動をとる必要がなかった

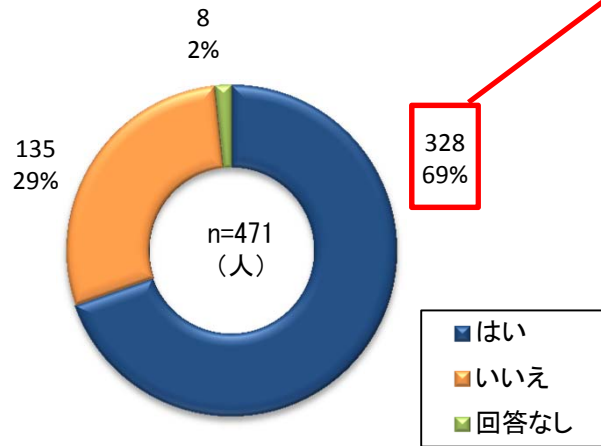
■ 退避命令を受けたため
■ 仲間の団員から避難を促されたため
■ 身の危険を感じたため(津波が見えたなど)
■ その他
■ 回答なし

地震の大きさ（震度）の把握状況

■ 震度情報の把握にラジオが最も活用されていた。防災行政無線（屋外拡声器）がそれに次ぐ。

震度の情報を把握していた団員は7割程度であった。3割程度の団員が震度を把握できていなかった。震度情報の入手方法は、ラジオが最も多く、防災行政無線（屋外拡声器）がそれに次ぐ。

Q 地震発生直後（概ね30分以内）に、地震の大きさ（震度）を把握できましたか？



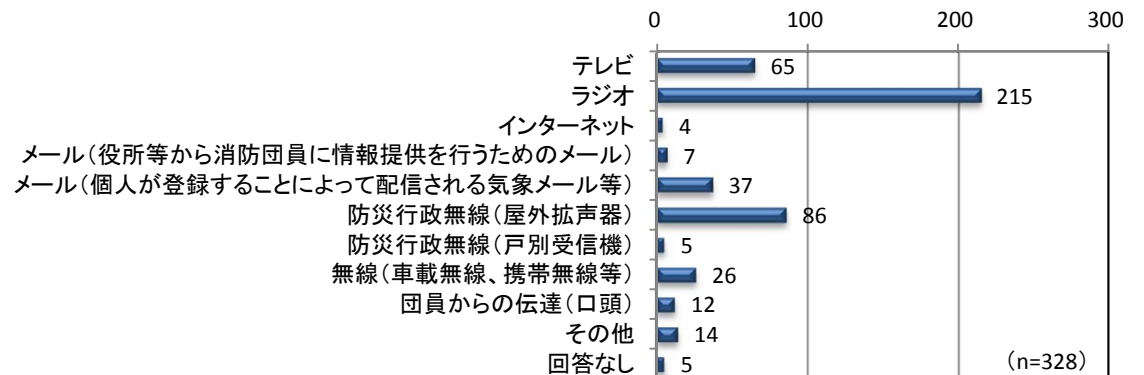
	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
はい	49	68	56	87	68	328
いいえ	25	33	21	16	40	135
回答なし	2	0	1	0	5	8
総計	76	101	78	103	113	471

Q 地震の大きさ（震度）の情報をどこから入手しましたか？（複数回答）

（単位：人）

	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
テレビ	9	11	6	3	36	65
ラジオ	31	44	38	71	31	215
インターネット	1	0	1	1	1	4
メール（役所等から消防団員に情報提供を行うためのメール）	0	5	2	0	0	7
メール（個人が登録することによって配信される気象メール等）	9	8	7	1	12	37
防災行政無線（屋外拡声器）	19	26	28	13	0	86
防災行政無線（戸別受信機）	1	3	1	0	0	5
無線（車載無線、携帯無線等）	2	8	4	12	0	26
団員からの伝達（口頭）	1	4	5	2	0	12
その他	1	3	6	0	4	14
回答なし	1	1	1	0	2	5

（n=328）

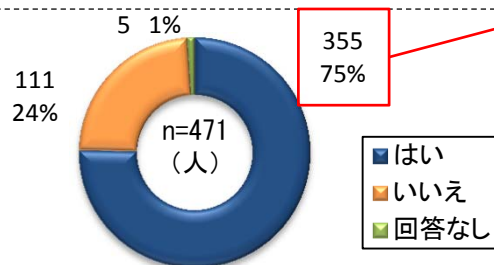


大津波警報発令情報の把握状況

■ 大津波警報の発令情報の把握にラジオが最も活用されていた。防災行政無線(屋外拡声器)がそれに次ぐ。

14時49分の大津波警報の発令を把握していた団員は8割程度であった。2割強の団員が大津波警報の発令を把握できていなかった。大津波警報の入手方法は、ラジオが最も多く、防災行政無線(屋外拡声器)がそれに次ぐ。

Q 14時49分に気象庁から大津波警報が発表になりましたが、把握できましたか？



(単位:人)

	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
はい	52	81	65	89	68	355
いいえ	22	20	13	13	43	111
回答なし	2	0	0	1	2	5
総計	76	101	78	103	113	471

Q 大津波警報が発令されたという情報をどこから入手しましたか？(複数回答)

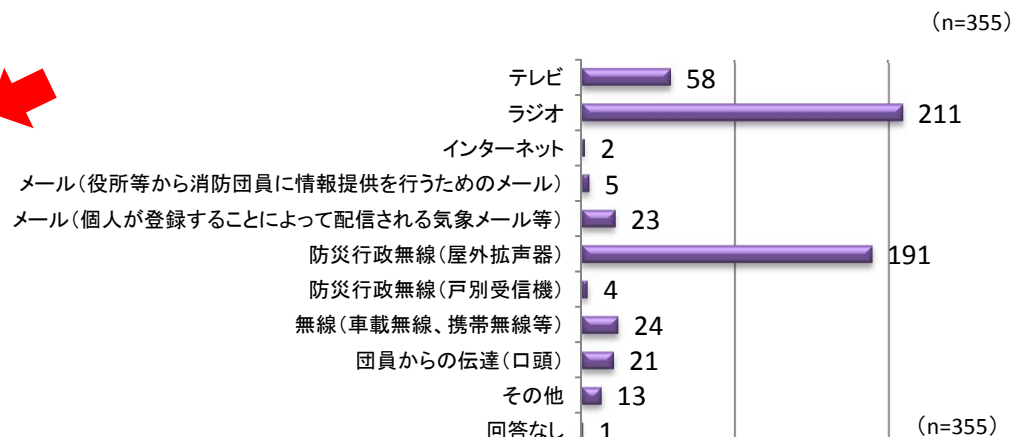
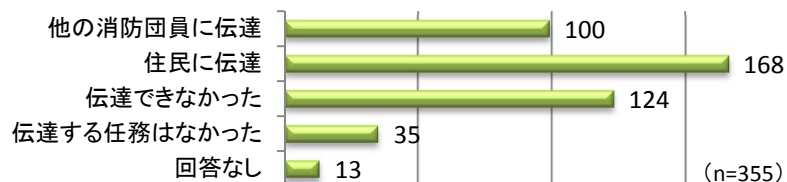
(単位:人)

	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
テレビ	9	6	5	3	35	58
ラジオ	29	42	34	77	29	211
インターネット	1	0	0	1	0	2
メール(役所等から消防団員に情報提供を行うためのメール)	1	2	2	0	0	5
メール(個人が登録することによって配信される気象メール等)	2	6	5	1	9	23
防災行政無線(屋外拡声器)	25	54	51	59	2	191
防災行政無線(戸別受信機)	2	2	0	0	0	4
無線(車載無線、携帯無線等)	5	6	4	5	4	24
団員からの伝達(口頭)	3	7	4	1	6	21
その他	2	2	2	0	7	13
回答なし	1	0	0	0	0	1

Q 大津波警報が発令されたという情報を他の団員や住民に伝達できましたか？(ア・イについては両回答可)

(単位:人)

	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
ア 他の消防団員に伝達	12	30	20	33	5	100
イ 住民に伝達	23	45	32	47	21	168
ウ 伝達できなかった	21	25	24	21	33	124
エ 伝達する任務はなかった	3	3	1	17	11	35
オ 回答なし	3	4	4	2	0	13



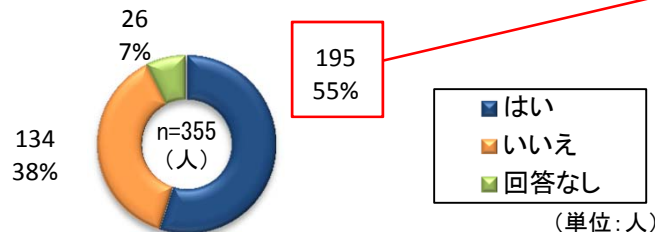
津波到達予想時刻の把握状況

■ 大津波警報の発令情報の把握した団員のうち、約4割は津波到達予想時刻を把握できていなかった

大津波警報の発令情報を把握した団員(355人)のうち、津波到達予想時刻を把握した団員は6割程度であった。4割程度の団員が、津波到達予想時刻を把握できなかった。情報の入手方法は、ラジオが最も多く、防災行政無線(屋外拡声器)がそれに次ぐ。

	岩手県	宮城県	福島県
津波到達予想時刻(第1波)	到達と推測	15時00分	15時30分

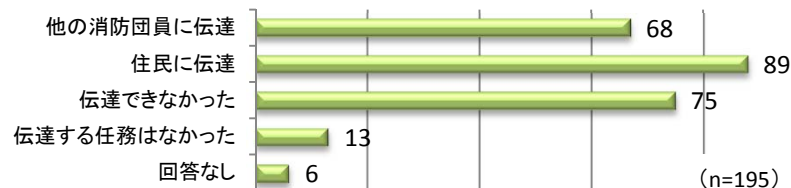
Q 大津波警報では、津波到達予想時刻について表のとおり発表されていましたが把握できましたか？



	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
ア はい	27	38	32	55	43	195
イ いいえ	22	39	32	19	22	134
回答なし	3	4	1	15	3	26
総計	52	81	65	89	68	355

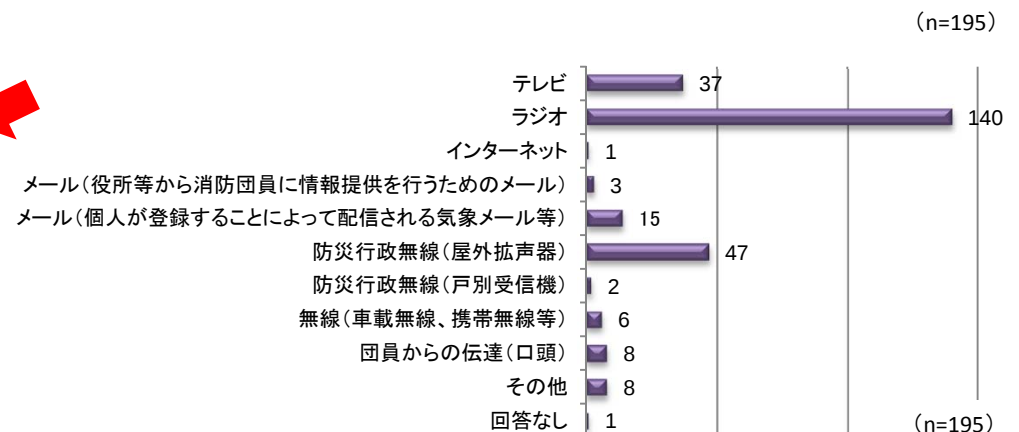
Q 津波到達予想時刻の情報を他の団員や住民に伝達できましたか？(ア・イについては、両回答可)

	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
ア 他の消防団員に伝達	2	17	12	32	5	68
イ 住民に伝達	9	20	15	35	10	89
ウ 伝達できなかった	12	12	14	17	20	75
エ 伝達する任務はなかった	2	1	0	1	9	13
オ 回答なし	2	2	0	1	1	6



Q 大津波警報の情報をどこから入手しましたか？(複数回答)

	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
テレビ	6	3	3	2	23	37
ラジオ	17	30	17	50	26	140
インターネット	0	0	0	1	0	1
メール(役所等から消防団員に情報提供を行うためのメール)	0	2	1	0	0	3
メール(個人が登録することによって配信される気象メール等)	1	3	2	1	8	15
防災行政無線(屋外拡声器)	11	14	19	3	0	47
防災行政無線(戸別受信機)	0	2	0	0	0	2
無線(車載無線、携帯無線等)	1	3	1	1	0	6
団員からの伝達(口頭)	0	2	5	0	1	8
その他	2	3	1	0	2	8
回答なし	0	0	0	0	1	1

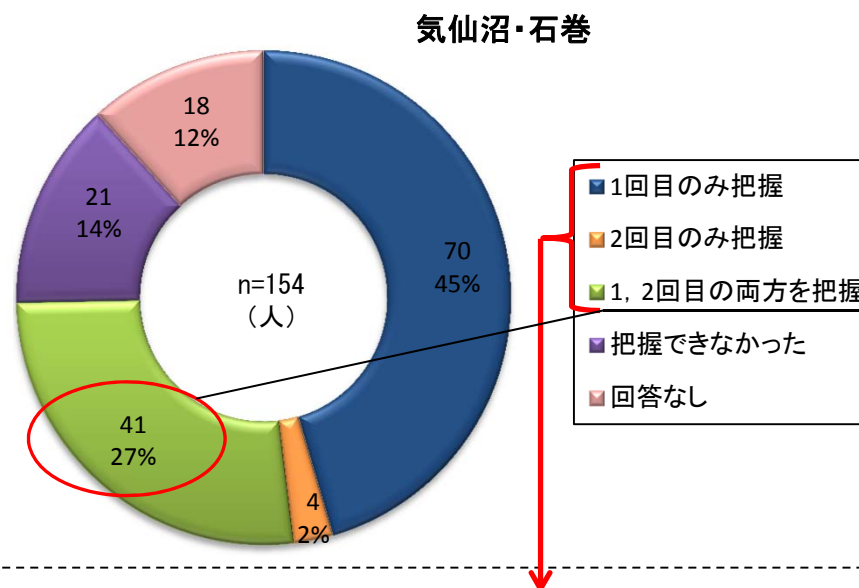
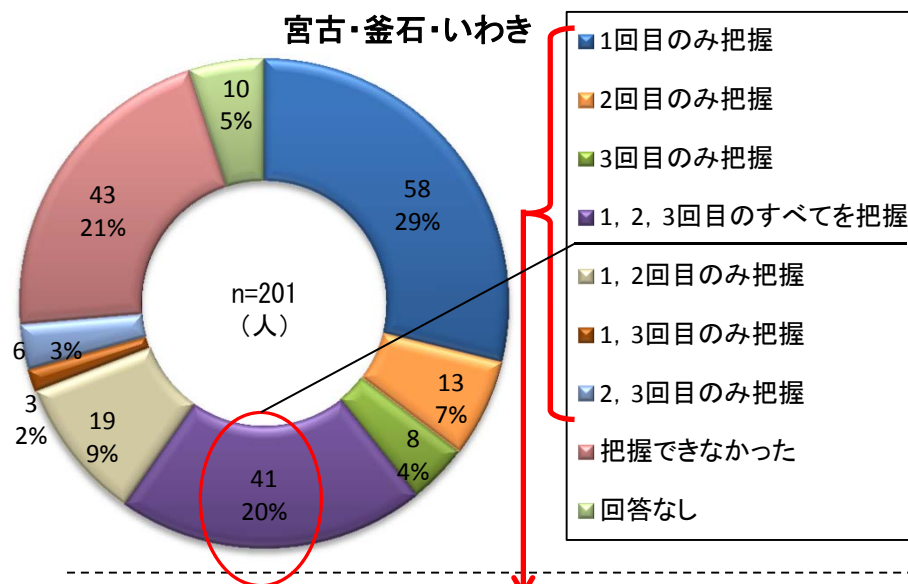


津波の高さ情報の把握状況

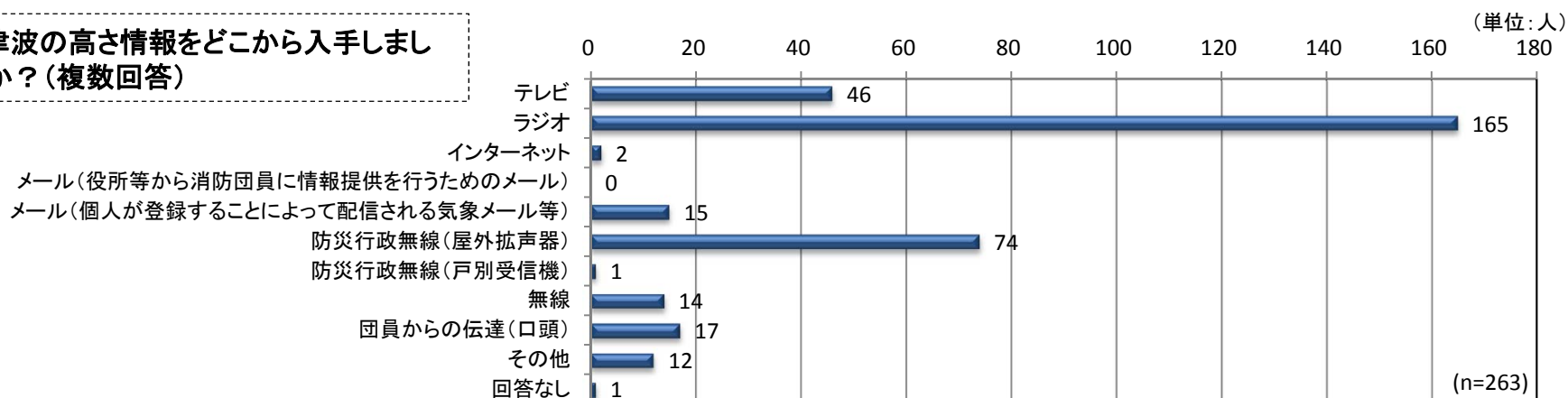
■ 大津波警報の発令情報を把握した団員のうち、すべての高さ情報を把握できた団員は少数

大津波警報の発令情報を把握した団員(355人)のうち、高さ情報をすべて把握できた団員は、岩手県(宮古市、釜石市)・福島県(いわき市)で2割、宮城県(気仙沼市、石巻市)で3割弱であった。情報の入手方法は、ラジオが最も多く、防災行政無線(屋外拡声器)がそれに次ぐ。

Q あなたは大津波警報の更新情報(岩手県・福島県:3回、宮城県:2回)を把握できましたか？



Q 津波の高さ情報をどこから入手しましたか？(複数回答)

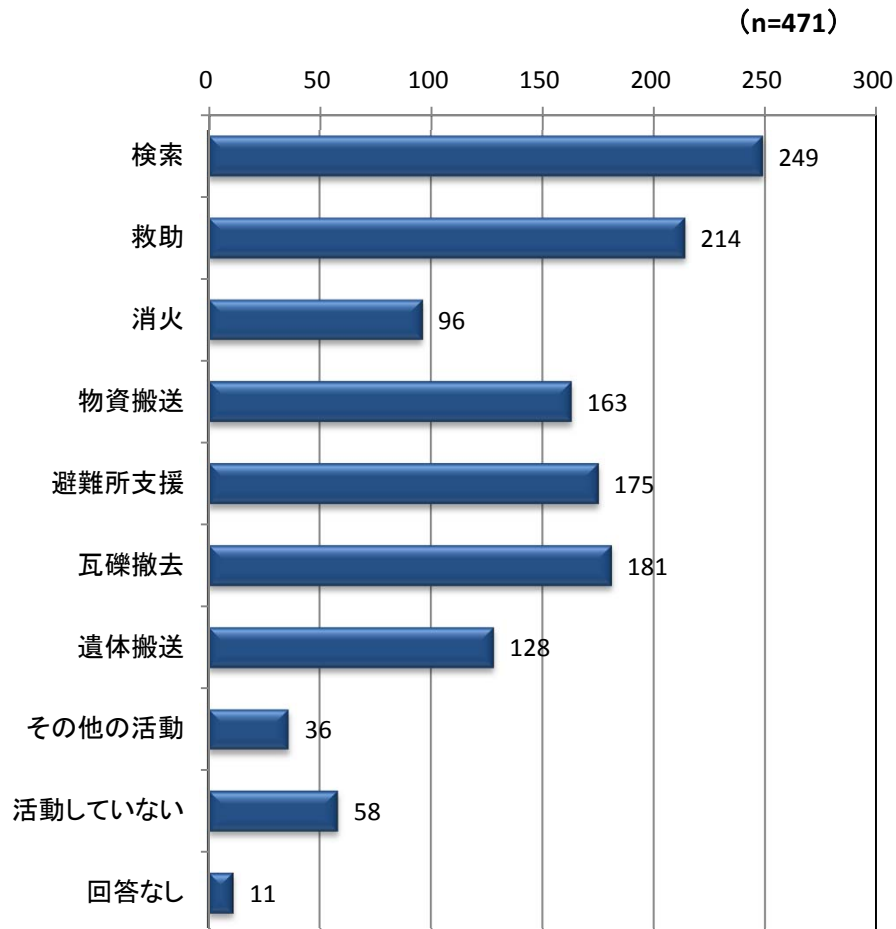


地震発生1週間の消防団活動

■ 今回の震災で、「瓦礫撤去」「避難所支援」「物資搬送」「遺体搬送」など、一般的な消防団活動以外の活動が多かった。

大規模火災が発生した気仙沼市では、消火活動が多かったものの、今回の震災では、検索、救助が主な活動であった。

Q 3月11日から一週間の間に、どのような活動を実施しましたか？（複数回答）



市別の内訳 (n=471)
(単位:人)

	宮古市 (76)	釜石市 (101)	気仙沼市 (78)	石巻市 (103)	いわき市 (113)	総計
検索	48	49	58	69	25	249
救助	47	42	43	60	22	214
消火	19	9	52	5	11	96
物資搬送	31	69	11	23	29	163
避難所支援	18	70	11	43	33	175
瓦礫撤去	33	54	18	59	17	181
遺体搬送	35	36	43	11	3	128
その他の活動	6	12	7	4	7	36
活動していない	3	3	8	7	37	58
回答なし	4	1	0	1	5	11

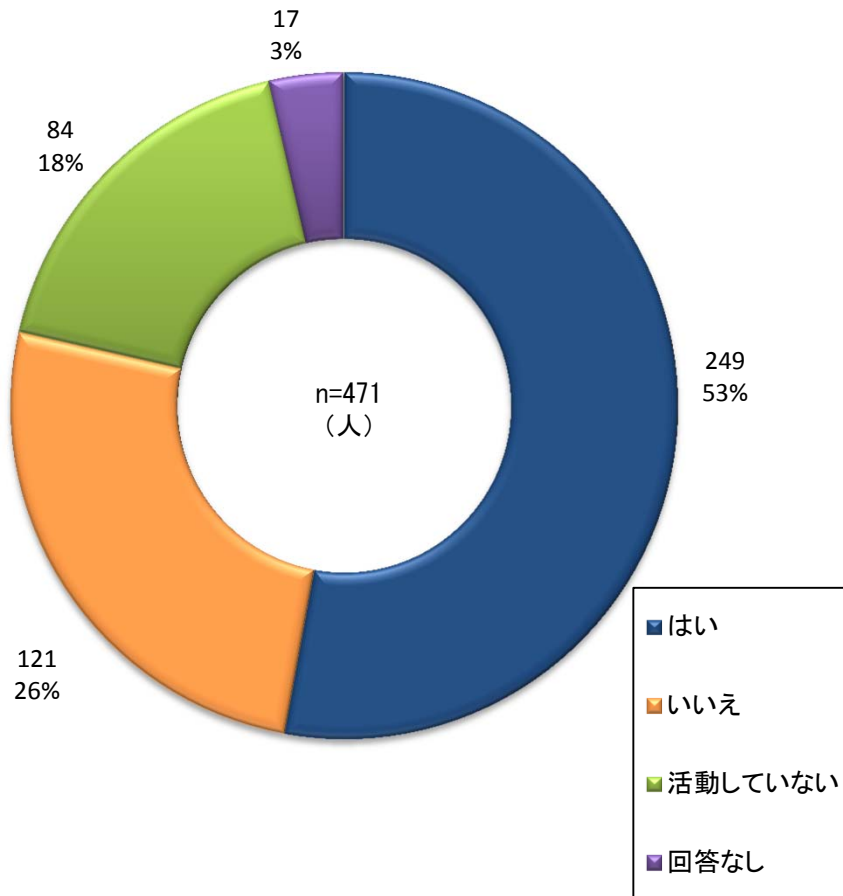
活動中の危険の有無

■ 半数以上の団員が震災での活動中に危険を感じたと回答

東日本大震災における消防団活動で、危険を感じた時があったと回答した団員は249人と、半数を超える。

具体的に危険を感じた場面として、「明かりがまったくない中で消火活動」、「避難指示に従わない人がいた」、「余震で、家屋倒壊のおそれがあった」、「水門の閉鎖作業」、「瓦礫が散乱しているため迂回しないと近くにある高台に避難できなかった」などの回答があった。

Q あなたは東日本大震災における消防団活動で危険を感じた時がありましたか？



Q 特にどのような場面で危険を感じましたか？

<回答例>

- 1日目の夜、明かりがまったくない中で消火活動をしている時
 - 消防団がいると安全だと思って一般の人が寄って来てしまった時
 - 捜索の際、雪でトタン屋根が滑った時
 - 捜索中の余震で、家屋倒壊のおそれがあった時
 - 津波が見えても、人が海岸にいれば海岸まで行き避難させなければならなかったこと
 - 停電・電話不通のため、どこにも連絡がとれず、家族への連絡が出来なかった時
 - 電柱などの感電が心配だった
 - 道路の陥没や瓦礫のため、近くにある高台にも遠回りしなければ避難できなかったこと
 - 避難指示に従わない人がいたために、自分が津波に巻き込まれそうになった時
 - 流出した家屋の瓦礫等についている釘を踏みつけた時
 - 水門の閉鎖作業
 - 水門閉鎖中、何台かの車やトラックなどが出ようとしたため時間がかかった時
 - 走れない人を避難場所まで担いでいった時
 - 水門を閉め避難誘導をしていたが、沖に行って帰って来ない人がいたため、もう一度水門を開けて帰って来た人を迎え入れた時
 - 複数の高齢者を避難させている時
 - 消防車で広報し避難誘導活動を行ったが避難指示に従わない人達がいた為に自分が避難するのが遅れてしまい津波に呑み込まれた。翌日の火災消火活動中にも津波警報が出され活動を中断して退避した
 - 停電していた中での深夜の活動
 - 道路の亀裂、陥没
 - 携帯電話で通じなかった時
- ほか

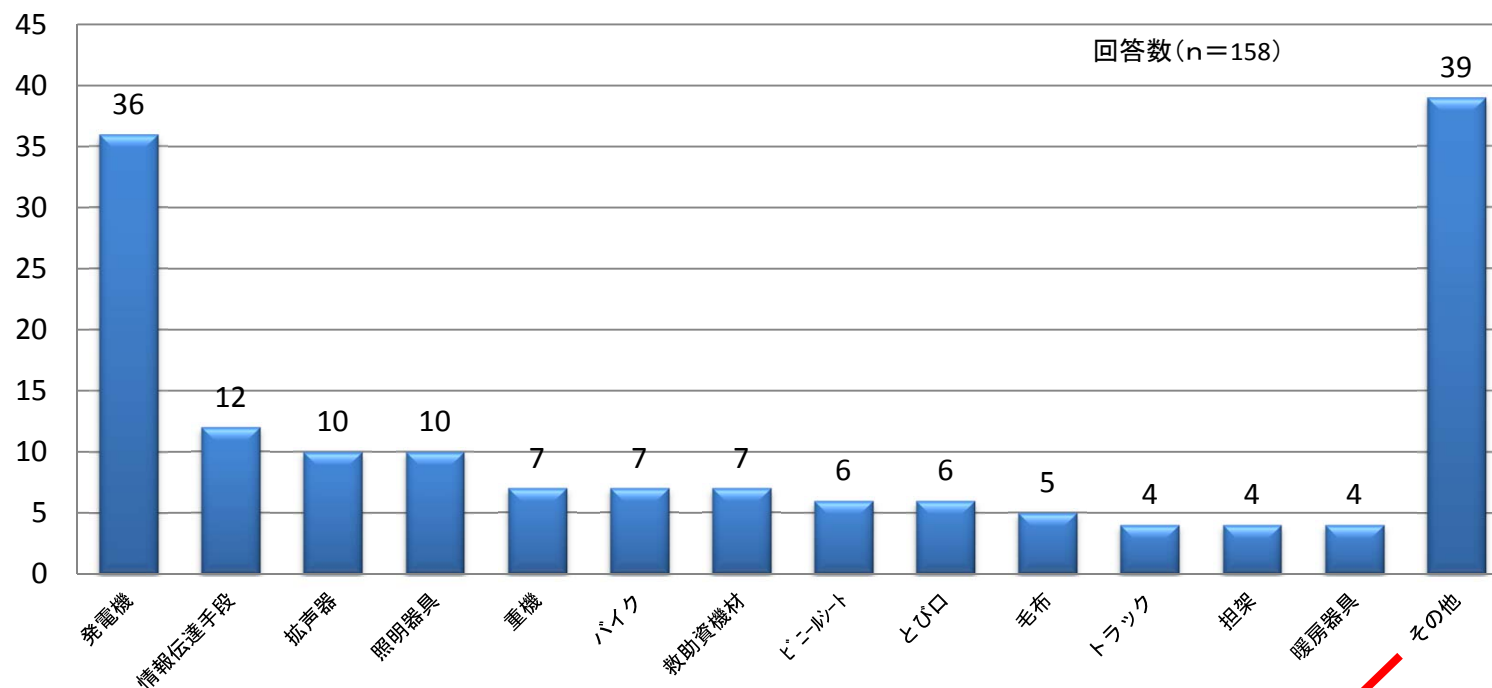
今回の震災対応で特に有効であった資機材

■ 発電機が有効であったという回答が多数。

停電が続いたため、発電機が有効であったという回答が多かった。団の活動に活用するだけでなく、「発電機を避難所に貸し出した」「避難所で照明、暖房が使えるようになり、住民・けが人の不安、恐怖をやわらげる効果があったのではないか」という回答もあった。そのほか資機材としては、情報伝達手段、拡声器、照明器具という回答が多かった。

Q 今回の活動中に使用した資機材で特に有効であったものがあれば、その理由とあわせて記載してください。(自由記載)

※ 自由記載の回答をカテゴリ毎に分類して集計



情報伝達手段：無線、トランシーバー等

照明器具：投光器、ヘッドライト等

救助資機材：エンジンカッター、チェーンソー等

(その他)

ポンプ(3)、マスク(3)、ラジオ(3)、胴長(3)、棒(3)、梯子(2)、リアカー(2)、バケツ(2)、ゴミ袋(2)、手袋(2)、ロープ(2)、ライフジャケット(2)、ガセットコンロ(2)、テント など

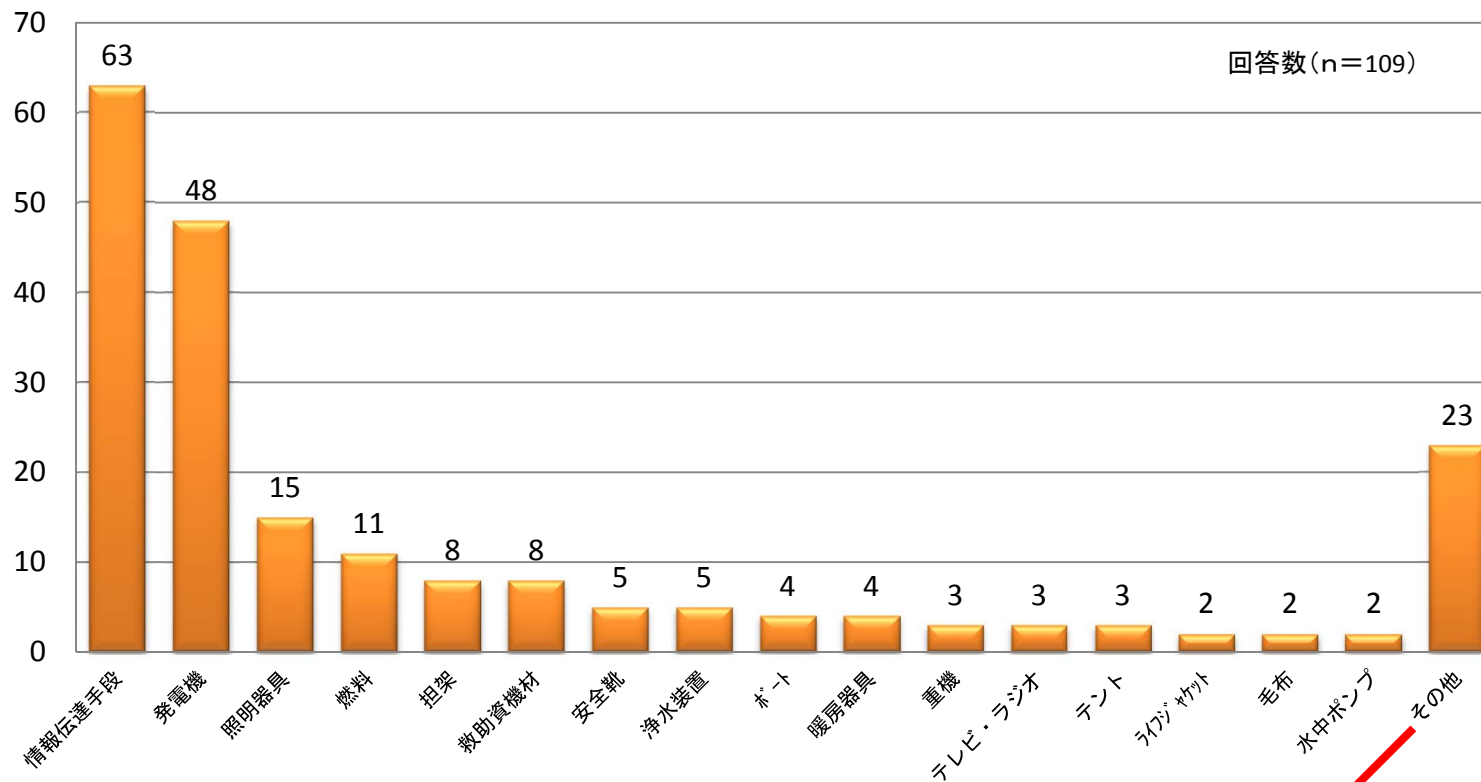
配備の必要性を感じた資機材

■ 情報伝達手段と発電機の配備を求める回答が多数

団員間の連絡がとれなかったとの反省等から情報伝達手段(無線、トランシーバー等)との回答が多かった。また、被災地では停電が長く続いたこと等から発電機との回答が多かった。

Q 今回の活動中に配備されていればよかったと強く感じた資機材があれば記載してください。(自由記載)

※ 自由記載の回答をカテゴリー毎に分類して集計



情報伝達手段：無線、トランシーバー等

照明器具：投光器、ヘッドライト等

救助資機材：エンジンカッター、チェーンソー等

(その他)

ゴーグル、手袋、乾電池、車椅子、自動車
高圧洗浄機、カラーコーン、リアカー
ソーラー充電器、ブルーシート、仮設トイレ
大きな回転灯、風呂、バイク など

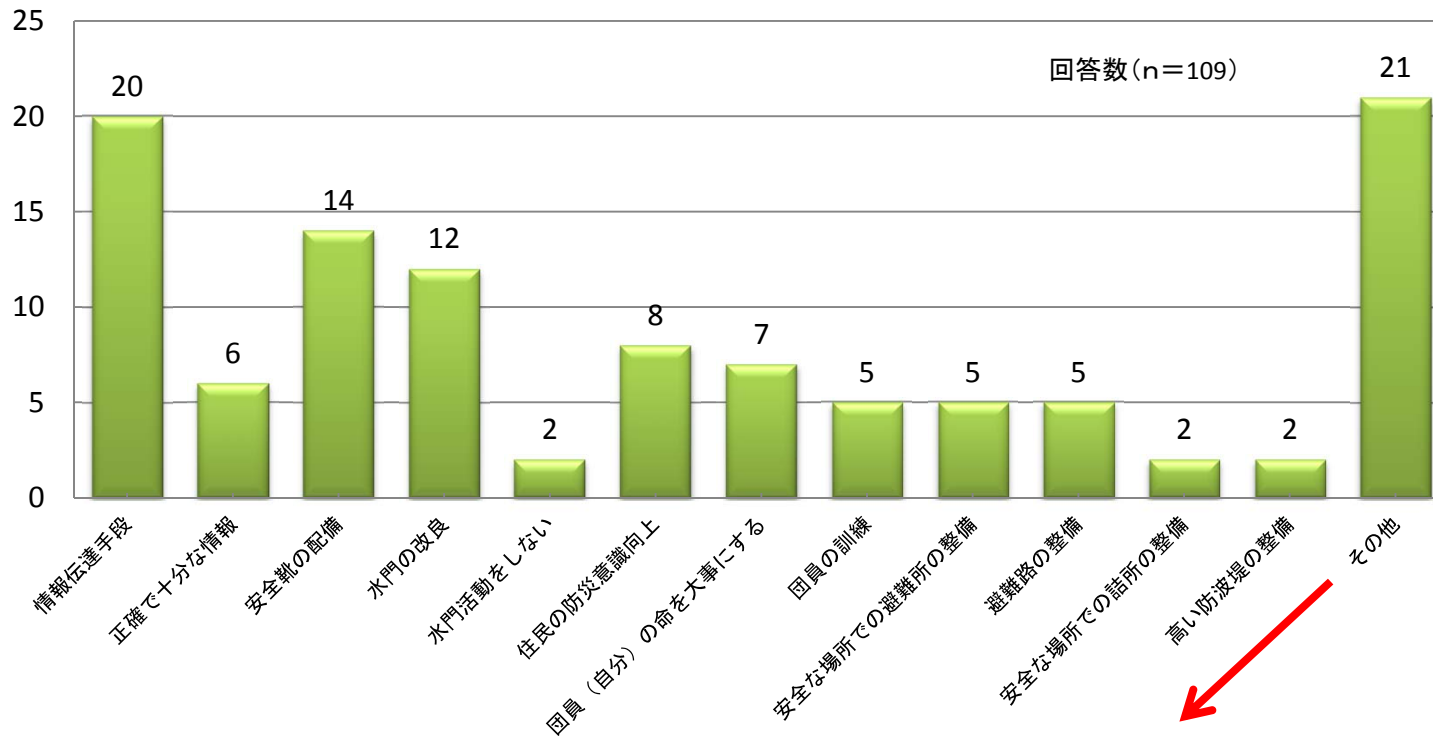
津波災害対策として必要だと感じたこと

■ 情報伝達手段の確保、安全靴の配備、水門の改良が必要との回答が上位

情報伝達手段の確保が必要だという回答が多かった。また、瓦礫の中の活動であったことから安全靴が必要だとする回答也多かった。水門の改良が必要だとする回答がそれに続き、そもそも水門活動を消防団が実施すべきでないという回答もあった。また、津波災害対策には住民の防災意識向上が必要との回答もあった。

Q 今回の活動において、津波災害対策で、活動上や安全対策として必要だと思うことがあれば、記載してください。(自由記載)

※ 自由記載の回答をカテゴリ毎に分類して集計



(その他)

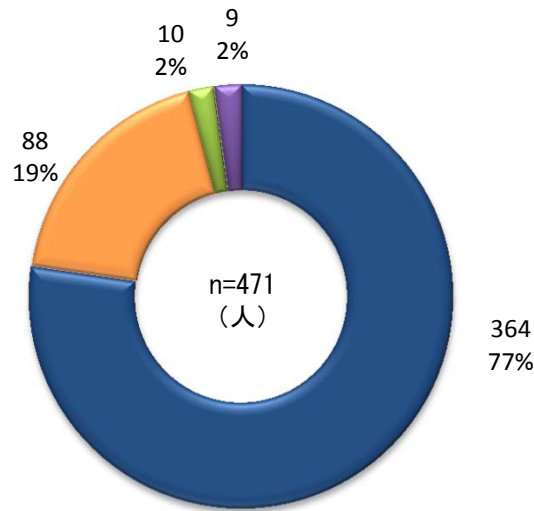
家族の安全確保、消防本部の安全確保、食料の備蓄、誘導方法の確立
津波の規模に応じた活動基準の作成、企業の消防団に対する理解、防寒着
線量計、薬の常備、健康管理、災害時要援護者の把握、団員数の確保 など

防災情報の把握状況

■ 防災情報の周知が足りず

約8割の団員が避難場所を把握していたが、避難場所を把握していなかった団員もいた。また、津波ハザードマップを見たことがあると回答した団員は約半数にとどまった。その一方で、津波ハザードマップを見たことがあると回答した団員は、8割以上が津波浸水予想地域を「把握できていた」又は「概ね把握できていた」と回答。

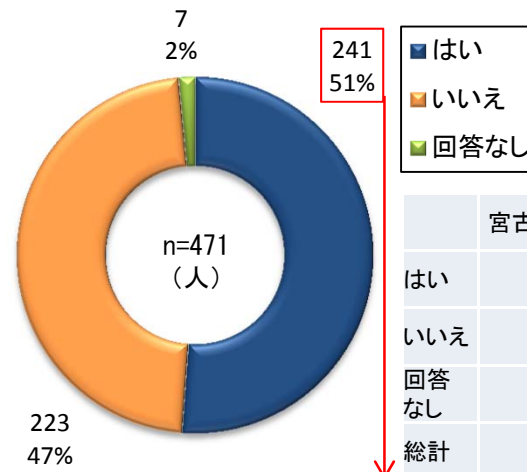
Q あなたは津波災害時の避難場所を把握していましたか？



■ はい
■ いいえ
■ 指定されていた場所がなかった
■ 回答なし

	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
はい	68	99	66	63	68	364
いいえ	4	1	11	36	36	88
指定されていた場所がなかった	1	0	0	1	7	9
回答なし	3	1	1	3	2	10
総計	76	101	78	103	113	471

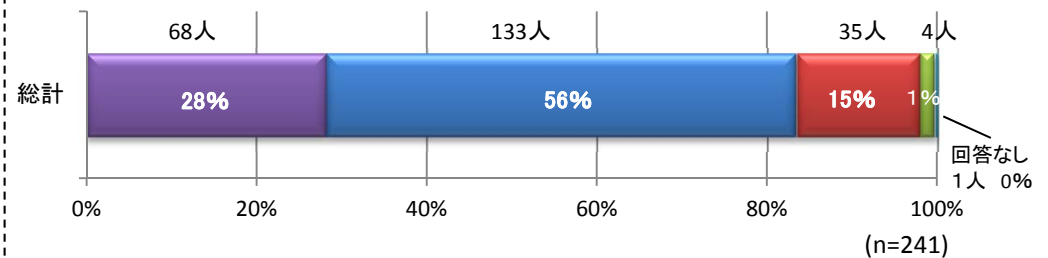
Q 津波ハザードマップを見たことがありますか？



■ はい
■ いいえ
■ 回答なし

	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
はい	45	74	60	47	15	241
いいえ	28	27	18	55	95	223
回答なし	3	0	0	1	3	7
総計	76	101	78	103	113	471

津波浸水予想地域の把握状況



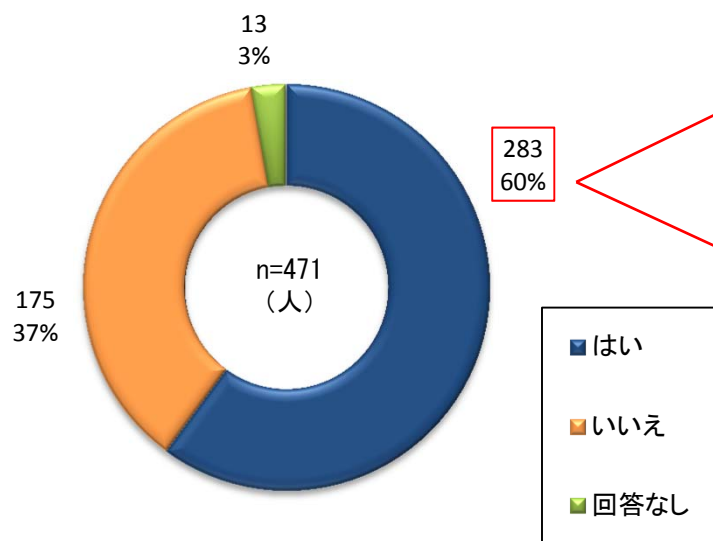
■ 把握できていた
■ おおむね把握できていた
■ あまり把握できていなかった
■ 把握できていなかった
■ 回答なし

津波防災関係の教育・訓練（その1）

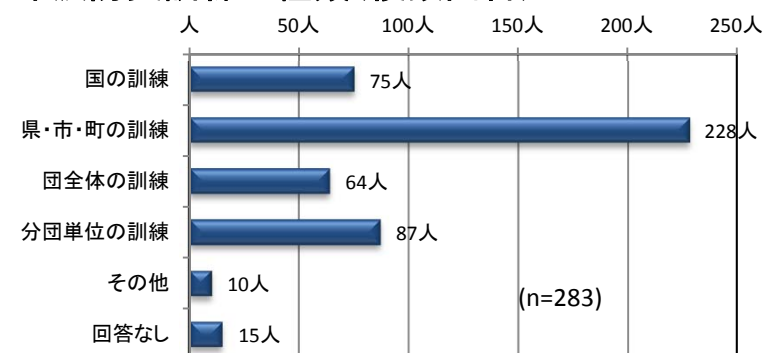
■ 津波防災訓練の参加状況には地域差がある

津波防災訓練に参加したことがある団員は全体の6割。しかしながら、地域によって差があり、釜石市や宮古市では9割程度の団員が津波防災訓練に参加している。訓練の種類としては地元自治体を実施する訓練が多い。訓練の参加回数は、年1回と回答した団員が最も多く、全体の約4割であった。

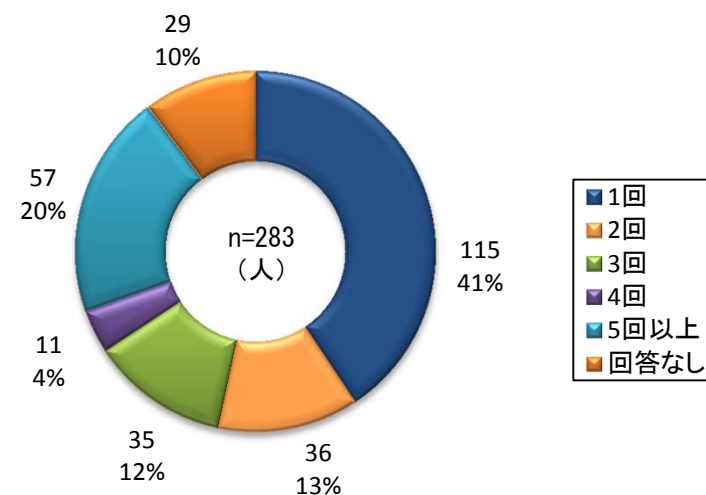
Q あなたは、これまでに津波防災関係の訓練に参加したことがありますか？



津波防災訓練の種類（複数回答）



津波防災訓練への参加回数について



(単位:人)

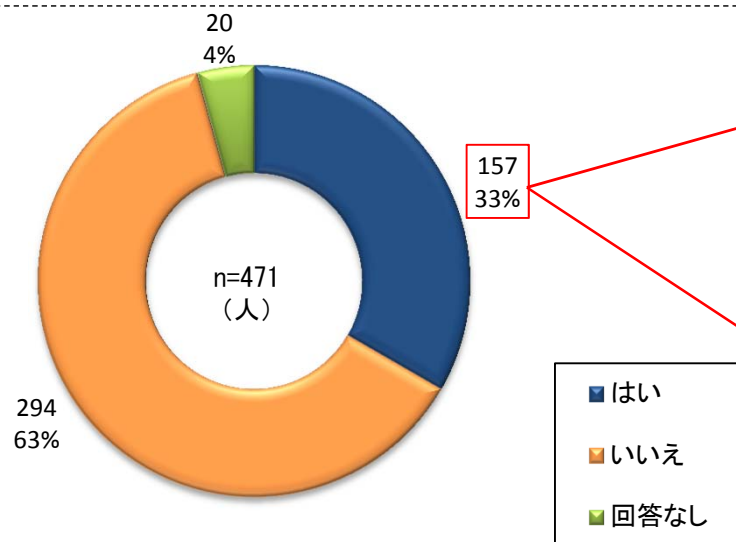
	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
はい	65	88	58	61	11	283
いいえ	10	9	20	40	96	175
回答なし	1	4	0	2	6	13
総計	76	101	78	103	113	471

津波防災関係の教育・訓練（その2）

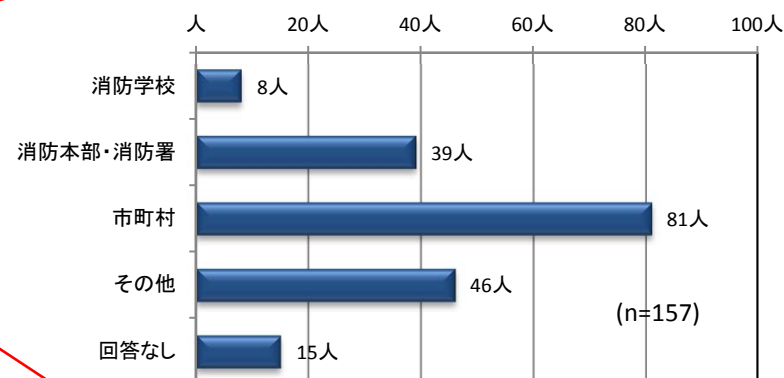
■ 地域差があるものの津波防災関係の教育が十分ではない

入団後、津波防災関係の教育を受ける機会があったと回答した団員は3割程度。教育を受ける機会があった団員も、市が実施する教育が主であり、消防学校で教育を受けたと回答した団員は8人であった。教育の回数は、年間1回と回答した団員が最も多く、全体の約4割であった。

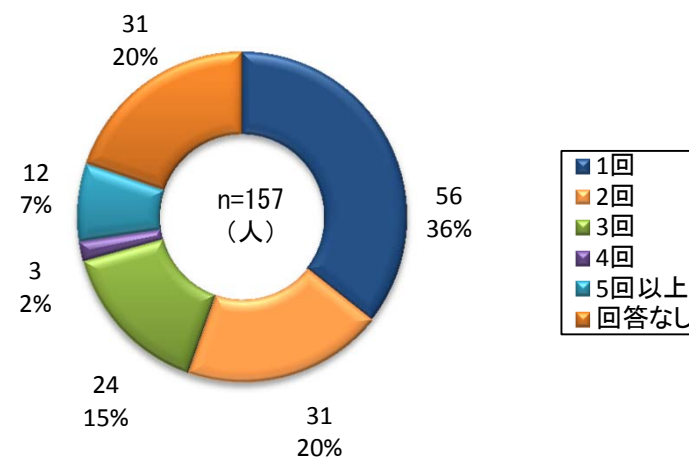
Q あなたが入団してから津波防災に関する教育を受ける機会がありましたか？



津波防災に関する教育の種類（複数回答）



津波防災に関する教育を受けた回数について



(単位: 人)

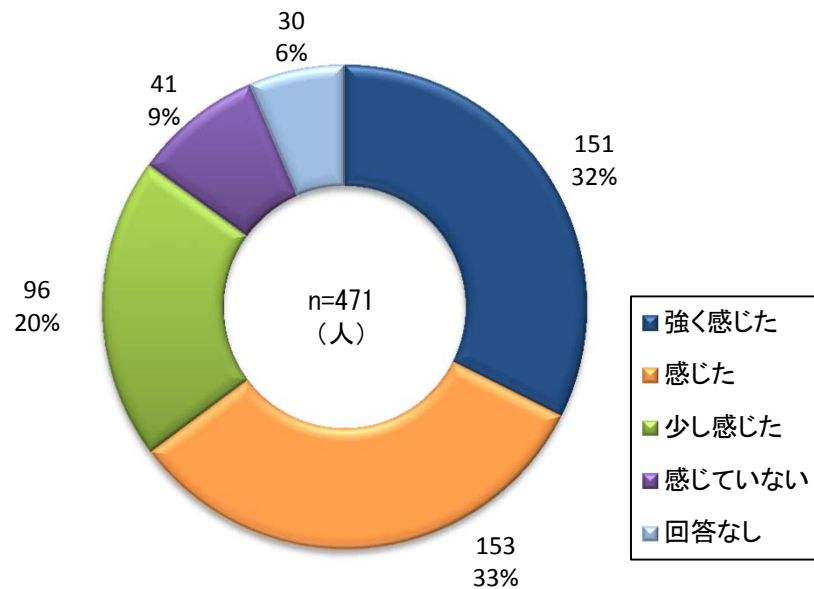
	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
はい	23	39	39	54	2	157
いいえ	48	59	38	44	105	294
回答なし	5	3	1	5	6	20
総計	76	101	78	103	113	471

惨事ストレス

■ ストレス対策が不十分

ストレスやショックを強く感じた(32%)、感じた(33%)、少し感じた(20%)を合わせて、8割以上の団員が震災での活動でストレスやショックを感じたと回答。しかし、何らかのストレス対策を実施したと回答団員は、約1割にとどまっている。

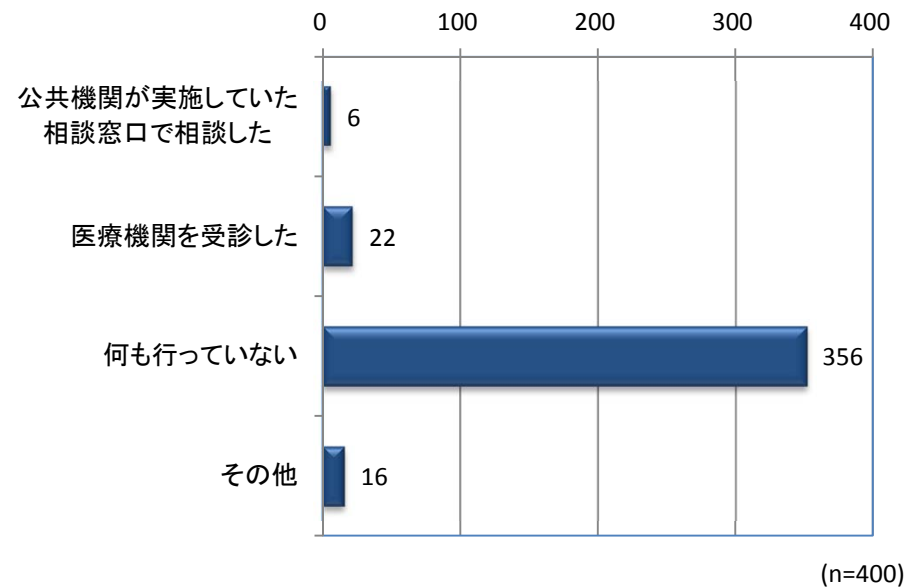
Q 震災での消防団活動によるストレスやショックについて、あなたはどのように感じましたか？



	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
強く感じた	28	50	16	26	31	151
感じた	21	38	27	29	38	153
少し感じた	12	8	20	39	17	96
感じていない	8	3	13	2	15	41
回答なし	7	2	2	7	12	30
総計	76	101	78	103	113	471

Q ストレスに対する対策を実施しましたか？

※ 「強く感じた」、「感じた」、「少し感じた」と回答した人への質問



	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
公共機関が実施していた相談窓口で相談した	1	2	1	1	1	6
医療機関を受診した	4	3	1	11	3	22
何も行っていない	52	90	56	82	76	356
その他	4	1	5	0	6	16
総計	61	96	63	94	86	400

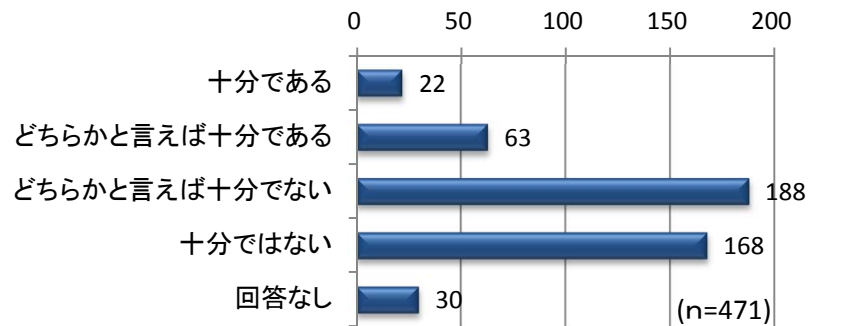
団員の処遇と今後の活動

■ 処遇が「十分である」「どちらかと言えば十分である」と回答した団員は2割弱

今回の大震災を経験し、処遇についても「十分ではない」「どちらかと言えば十分でない」と回答した団員が約8割に達しているにも関わらず、約4割の団員が消防団員を「当分続けたい」と回答。

しかし、「辞めたい」と約3割の団員が回答しており、今後の団運営に不安が残る結果となった。

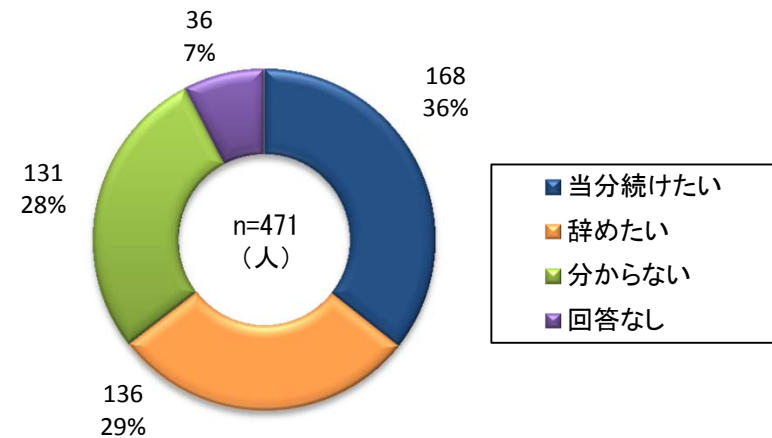
Q 消防団の処遇(団員報酬、出動手当)について、あなたはどのように感じていますか？



(単位: 人)

	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
十分である	7	5	6	0	4	22
どちらかと言えば十分である	14	9	14	7	19	63
どちらかと言えば十分でない	23	33	21	70	41	188
十分ではない	22	52	34	21	39	168
回答なし	10	2	3	5	10	30
総計	76	101	78	103	113	471

Q あなたは今後、消防団員を続けていきますか。



(単位: 人)

	宮古市	釜石市	気仙沼市	石巻市	いわき市	総計
当分続けたい	26	41	46	24	31	168
辞めたい	22	24	9	55	26	136
分からない	21	32	17	17	44	131
回答なし	7	4	6	7	12	36
総計	76	101	78	103	113	471

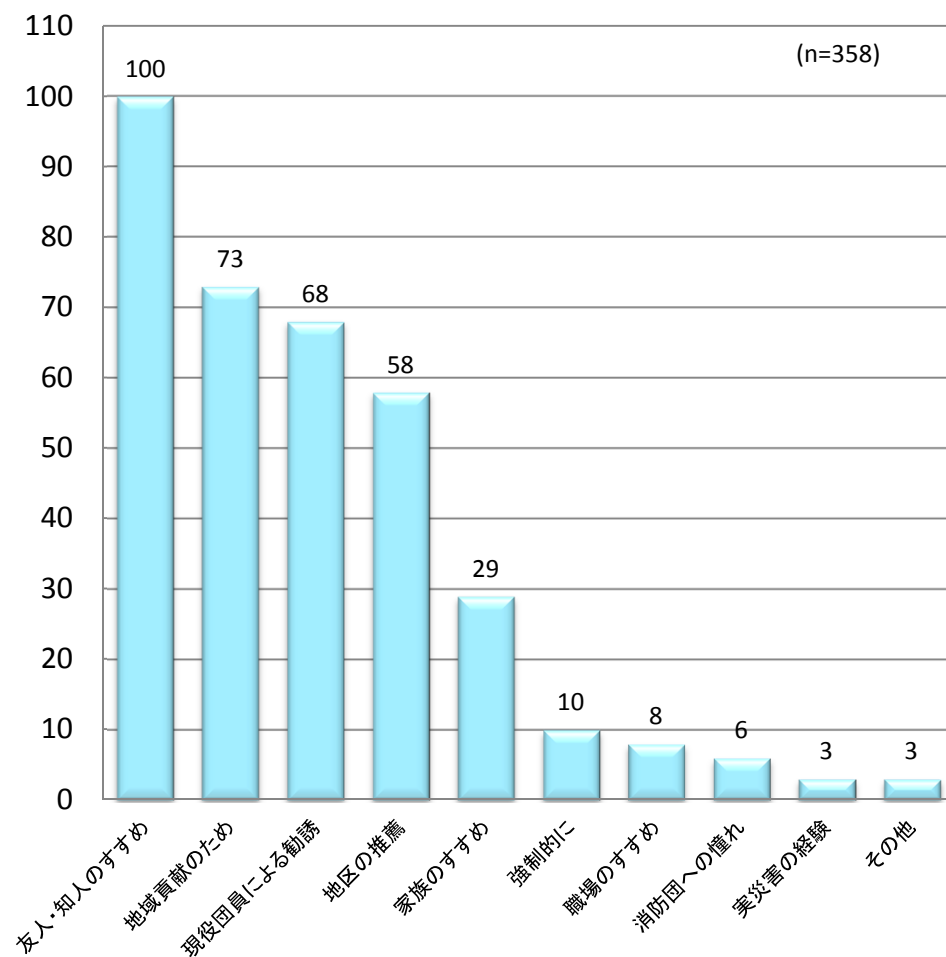
消防団に入団したきっかけ

■ 「友人・知人のすすめ」との回答が最多

入団のきっかけは「友人・知人のすすめ」(100人)が最多で、「地域貢献のため」(73人)、「現役団員による勧誘」(68人)、「地区の推薦」(58人)と続く。

Q あなたが消防団に入団したきっかけを記載してください。(自由記載)

※ 自由記載の回答をカテゴリー毎に分類して集計



回答例

【友人・知人のすすめ】

- 先輩に勧められ自分も地域の役に立てればと思ったから。
- 同年代の友人が入団し、勧められたから。

【地域貢献のため】

- 地域の安全・安心を守るために火災・事故等の災害発生時に消防活動をしたかったから。
- 自分が生まれた町で自分が少しでも出来る事をしたいと考えたから。

【現役団員による勧誘】

- 当時の分団長から誘われたから。
- 分団の皆さんに熱心に誘われたため。

【地区の推薦】

- 区長に依頼されたため。

【家族のすすめ】

- 父に入団を勧められたため。

【強制的に】

- 先輩に無理やり入団させられた。

【職場のすすめ】

- 会社が地域貢献を求めているため。

【消防団への憧れ】

- 子供のころ消防車に乗せてもらって憧れていた。

【実災害の経験】

- 近所で火災があったから。